

2001年4月27日

米合衆国大統領  
ジョージ・W・ブッシュ 閣下

日本労働組合総連合会（連合）  
会長 鷲尾悦也

## 京都議定書からの離脱の撤回と 批准・発効にむけた国際合意達成への要請

連合は、我が国を代表する800万人の労働者を組織する立場から、貴国の京都議定書からの離脱に対して大きな驚きを感じています。

地球環境の現状を考えると、気候温暖化の原因となる温室効果ガスの全体の排出量の25%を排出している米国が、今回京都議定書から離脱することは議定書全体の枠組みに、極めて重大な影響を与えることとなります。また、今回京都議定書が合意できず、流れることになれば関係各国の10年におよぶ国際交渉が水泡に帰し、気候温暖化対策は相当遅れることとなります。

この観点から、大統領閣下と貴国政府に、京都議定書への復帰と批准・発効のために、先進国の代表国としての国際的役割と責任をはたすよう要請します。

連合は、1998年12月のCOP3で採択された京都議定書は気候温暖化防止のために重要な第一歩と評価し、日本政府に今後速やかに批准・発効させるよう働きかけてきました。

この立場から、4月2日には日本政府・環境省に対して、米国政府に対して京都議定書からの離脱宣言の撤回を働きかけるよう要請してきました。

さらに連合は、我が国を代表する労働組合の立場から、ICFTU、OECD-TUACに加盟する世界のすべての労働組合に、米国政府及びブッシュ大統領に対し、京都議定書からの離脱の撤回と批准・発効のために、影響力を発揮するよう、要請していることを明らかにします。

最後に、連合は60億人が住むこの青い地球が、子々孫々まで、存続することを貴大統領閣下とともに願っていることを申し添えます。

以 上